肉腫症3例13.4～21.1%（平均17.1%），白血病2例21.7～28.0%（平均24.8%），その他疾患で比較的高値を示したのネフローゼ症候群5例平均23.8%，慢性腎炎6例16.6%，肝硬変8例17.1%，糖尿病4例18.4%，重症肺癌6例16.5%，不全4例22.9%であった．

3. 他の検査成績との比較：

正常者94例，甲状腺機能亢進症95例，甲状腺機能低下症9例，単純性甲状腺腫76例，亜急性甲状腺炎10例について ^{131}I-T_3 赤血球摂取率，^{131}T 甲状腺摂取率，基礎代謝率を全例に行ない，3者の成績を比較検討した．

4. 甲状腺疾患治療前後の ^{131}I-T_3 赤血球摂取率：

^{131}I にて治療した甲状腺機能亢進症76例について本検査と ^{131}I 甲状腺摂取率および基礎代謝率を施行し，本検査は臨床綜合成績と最もよく一致することを述べ，また抗甲状腺剤で治療した甲状腺機能亢進症，甲状腺剤で治療した甲状腺機能低下症および副腎皮質ホルモンで治療した亜急性甲状腺炎のそれぞれ5症例について本検査が臨床経過を正しく反映したことをのべた．

5. 検査簡易化の検討：

本検査の欠点の1つは操作が長時間を要する点にあるが，われわれはこの原因になる赤血球を生理的食塩水で洗う操作の回数と incupation に要する時間について検討し簡易化の可能性を示した．

72. Resin の ^{131}I 標識 l-Triiodothyronine 攝取率について

○中家一夫，鳥塚莞爾
（京都大学・三宅内科）

われわれは Sterling らの方法を改良した Manuel Nava らの方法により resin の ^{131}I 標識 *l*-triiodothyronine（*l*-^{131} T_3）摂取率（以後単に摂取率）を測定し，若干の基礎的検討を行なった．1）甲状腺機能異常者の摂取率の平均値は機能亢進症44.2%単純性甲状腺腫35.3%，低下症18.7%で正常者は33.3%であった．2）摂取率は PBI 値と有意な正の相関があった．3）摂取率は Thyroxine Binding Capacity（TBC）と有意な負の相関であった．4）生食水中での摂取率は92.2%であった．5）Regin の ^{131}I 標識 *l*-thyroxine 摂取率は *l*-^{131}I T_3 の場合の½～⅓であった．6）Resin の Na ^{131}I 摂取率は94.3%で，これは生食水中でもほぼ同様であった．したがって使用する *l*-^{131}I T_3 溶液の脱ヨードの割合が大きいと摂取率は高くなり，補正が必要になるが，われわれの測定では血清を加える直前の *l*-^{131}I T_3 溶液は毎回ほぼ93% Pure でほとんど一定していた．7）非放射性の NaI を血清に加えても摂取率は変わらなかった．8）摂取率は加える *l*-T_3 量とくに resin の量が増すにつれ増加した．9）血清を生食水で½，¼，⅛ と薄めると摂取率は次第に増加した．10）摂取率はあらかじめ血清と非放射性 *l*-thyroxine を加えることにより増加した．11）軽度の甲状腺機能亢進症患者の1例に pretiron 100 JSU を筋注し，筋注後の PBI，TBC および resin の摂取率の変動をみたところ，筋注後の各時間において（TBC-PBI）の値が小さくなればなるほど resin 摂取率は大きくなるという一定の関係が認められた．われわれは第35回日本内分泌学会で赤血球の ^{131}I 標識 *l*-triiodothyronine 摂取率が，血清中の thyroxine に結合していない thyroxine binding globulin の量によることを in vitro の実験で示したで，これは同じ機序によると考えられる resin 摂取率において in vivo で立証するものである．

73. ^{131}I-Triiodothyronine Resin Sponge Uptake による甲状腺疾患の診断

○与那原良夫，木下文雄
＜放射線科＞
斉藤　浩，荒井寿朗
＜内　科＞
吉浜英正
＜検査科＞（都立大久保病院）

^{131}I-T_3 赤血球摂取率測定は煩雑で，時間を要し，しかも赤血球洗浄を行なわなければならないため溶血を生じやすく，その他 Ht 等の影響も考慮しなければならぬ難点を有する．

Triosorb は赤血球の代用物として resin sponge を用いるもので，このため前述の影響はまったくなく，短時間できわめて簡単に操作しうる．

われわれは正常例44例を含む各種甲状腺疾患111例に本法による検査を行なった．正常男（10例）では31.8～41.7%，平均値34.7%，正常女（34例）では21.1～44.7%，平均32.0%．甲状腺機能亢進症（35例）では45.0～68.5%，平均58.4%で機能低下症（5例）では20.0～25.1%，平均22.3%であった．その他，結節性甲状腺腫，び漫性甲状腺腫，悪性甲状腺腫，亜急性甲状腺炎および慢性甲状腺炎はいずれも正常値を示した．ただし亜急性甲状腺炎の1例は少数例のため意味を付しがたい．

Presented by Medical*Online